

今月号は、昨年の新潟県6月議会について、先月号に続いて取り上げます。

先月号では、新潟県農業の基幹である稲作に関する課題を中心に取り上げました。

今月号では、阿賀野市で展開されている先進的農業経営の取組みを紹介します。

開を開催する。

- ・農地集積・集約化による経営基盤の強化
- ・附加值の高い農產品の生産による所得の確保
- ・6次産業化や多様な販路確保等による農業経営の発展
- ・国際化にも対応できる安全・安心な農產品の提供



最先端施設園芸モデルを視察

「暮らせる農業」の実現

中山間地域でも農業が生業として営み続けられる営農体制の構築を支援する。

- ・公的支援等の拡充による集落営農の推進
- ・都市と農村の交流促進と地域資源の有効活用

「未来につながる農業」の実現

まずは、その事例紹介のために、私達阿賀野市民が新潟県の農業政策を理解することが重要です。そこで、新潟県が重点的に取組む3つの農業施策の要点を以下に示します。

「稼げる農業」の実現

担い手や若者が将来に希望を持つて経営できる農業の展

- ・担い手育成や経営資源の継承による農業の持続的発展を支援する。
- ・若手農業者の育成・定着と経営管理能力向上の支援
- ・担い手とリタイア農家のマッチング、担い手への資金融通からなる農業の継承支援

安心な農產品の提供

産官学の連携、廃校利用の植物工場



(株)脇坂園芸は、これまで大手ホームセンターへの花の小鉢の卸生産と稻作を生業としていました。5年程前に新たな取組みとして、エディブルフラワー（食用花）の生産を開始しました。その中で一番の課題は、無農薬栽培なので虫が付着し、花弁の一枚いちまいを絵筆で除去するのに膨大な手間を要したことでした。

近年になり、各地で植物工場が建設され、これが打たれています。新潟大学の学生さんも研究の一環と

全市民、友と友、手を取り合い、阿賀野市活性!

食品開発支援策、乾燥施設で野菜・果物の需要拡大を

野菜・果物の需要拡大を

乾燥機を購入、業務委託をしている。

阿賀野市内でコメ以外の農作物を作っている農家は全体の5%です。食品を手軽に加工できる場を提供して、新商品の開発に取り組む野菜農家や食品製造業を後押しし、野菜や果物を増やすことが狙いで

す。昨年は、試作無料もあり5件の申し込みがありました。

総事業費1千万円をかけ、閉校した旧大和小学校の建物に、山形大学発のベンチャー企業が開発した

開策となると考え、地元の仲間たちと新たな研究を始めました。その結果、新潟工業技術総合研究所の指導や、廃校となつた大和小学校の工場利用など、ひとつつのモデルができるようになりました。県の大きな支援を受けたことになりました。

現在では、栽培ラインが4レーンある中で、2レーンを脇坂園芸が、後の2レーンは県の研究所と一緒に加わっています。

地域にとっては、まさに産官学の連携の実現です。



阿賀野市の活力ある 取組事例



1ページ目では、阿賀野市における農産品の商品開発や、産・官・学連携による取組事例について紹介しました。

て一歩も一歩も先を行つてゐる阿賀野市における取組事例を紹介します。

酪農経営の多角化 ～「みるばす」オーブン～

(株)神田酪農は、三代に渡り酪農経営を行つてゐます。平成20年から自家ブランデ牛乳の「やまだ愛情牛乳」と「白鳥の翼」を販売しています。これに続き、ソフトクリーム＆ジンジャー店「みるぱす」をオープンしました。

店名の「みるぱす」は「ミルクへのパスポート」という意味があり、ジンジャー等を通して、牛乳(ミルク)生産への理解を促進したいといふ願いが込められています。

また、当農場は、HACCP方式による農場の衛生管理に取組み、県クリーンミルク生産農場に認定されています。乳しぼり、餌やり

など体験できる酪農教育ファームも実施し農場を市民の皆さんに開放しています。



定期的に酪農昆虫学会を開催 小・中・高校の昆虫学も受け付けています

園芸導入による 稲作経営の複合化

(有)安田興和農事は阿賀野市旧安田地区で稲作を中心に農業を営んできました。目的として平成23年より東部産業団地内にて大型鉄骨ハウスを利用した「越後姫」の栽培に取り組み始めました。炭酸ガスや有機質肥料を使用するなど品質にこだわった栽培を行っています。



東証証券では、イチゴの甘い香りが、隣室にドミテ

その翌年にはお米でもJGAP認証を取得し、より安全安心な農産物を召し上がつていただけるよう日々努力している。お米やイチゴのほかにもハウス軟白ネギやオータムポエム、ピーマン、イチジクの栽培にも取組んでいます。

ただ美味しいイチゴではなく、食品安全の確保や環境へ与える負荷を低減した栽培に取り組み、平成26年にイチゴで新潟県初となるJGAP認証を取得しました。

阿賀野市大室の五頭山麓で養鶏業を営む「ひよひの鶏園」。当地には澄んだ空気と豊かな水があり、周辺の山林には猪や雉など野生動物も生息しています。

この恵まれた育成環境の中で、卵の生産に取組んでいます。一般的に市販されています卵の多くは、身動きのとれないケージの中で、食べて、寝て、産む、を繰り返し行われる」として大量生産されています。「ひよひの鶏園」では、鶏の健康を第一に考え、ケージを使わない「平飼い」で飼育。また、鶏舎の床にワラと鶏ふんを敷き詰める」として、微生

たとしても、鶏たちが動き回ることでワラが拡散され、さらに発酵が続いている。実際に鶏舎に入つてみても臭いが気になりません。



自分が本当に食べたい、安全で美味しいものをお届けしたい

阿賀野市が元気になる、
提案・意見をお寄せ下さい

次回テーマは「**教育文化関連**」です。
特定の思想・主義の主張や、他者への非難や批判ではなく、あくまでも建設的な内容に限ります。文字数は400字以内です。

ほかりけんじ事務所

〒959-2221 阿賀野市保田 737-2
TEL:68-5441 FAX:68-5515
Mail:kennji@hokakken.jp